

令和4年度地方創生ストリートミーティング（チャレンジしている女性編）

ご意見等と対応方針

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
1	<p>都会の子と国府町の子を見比べた時に、IT関係がすごく遅れていると感じる。田舎だからと子供たちがマイナス面を感じていることがあるが、ITがあれば世界とつながれる時代である。教育関係でもっとITに力を入れても良いのではないかと。</p> <p>タブレット端末の導入だけでなく、ITリテラシー教育、プログラミングについても仕組みを学ぶ教育など、田舎だからこそ先んじてやってほしい。ITを学ぶことが目的ではなく、ITを使って学ぶことが必要で、都会の子は当たり前に使っている状況もある。</p>	<p>本市では、ICTを効果的に活用した学びを推進しており、タブレット端末を活用して、プログラミング教育やオンライン学習、姉妹都市交流等に取り組んでいるところです。</p> <p>本年度は、海外の外国人講師と直接やり取りができるオンライン英会話を導入し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図りました。</p> <p>今後も学校教育の情報化を推進し、ICTを活用した学びを充実させ、子どもたちの情報活用能力の育成を図ってまいります。</p>	学校教育課
2	<p>子育て王国首都である鳥取市には、「妊娠」を地方創生推進のテーマとした全国のロールモデルになっていただきたいと思い、「コウノトリプラン」を提案したい。</p> <p>① 実年齢と子宮年齢は異なり、20～30代の女性でも閉経している方はおられる。AMH（抗ミュラー管ホルモン）検査を若い時から周知していただき、出産するという選択肢を選べるようにしていただきたい。</p> <p>② 学校の保健体育などで実年齢と卵子の数、子宮の年齢は違うということ伝えるだけでも違うと思う。</p> <p>③ 鳥取市としてAMH検査に対する助成をしていただきたい。鳥取市予算面での負担も大きくなると思うので、例えば高校卒業する18歳や20歳の方を対象にすることも検討されうと思う。</p> <p>④ 鳥取市男女共同参画かがやき企業の認定においても基準の一つにする等、不妊治療と仕事の両立ができる鳥取市を目指してほしい。</p>	<p>① AMH検査につきましては、将来、子どもを持つという選択肢を考えている方や、妊娠のためだけではなく自身の健康状態や生活習慣を見直す上でも有効と考えております。検査の周知方法につきましては、関係機関と検討してまいります。</p> <p>② 現在、中学校の保健体育で生殖機能について学習されており、ご提案の内容について、教育委員会と協議してまいります。</p> <p>③ AMH検査にかかる費用は高額であると認識しております。今後、助成について検討してまいります。</p> <p>④ だれもが働きやすい職場環境づくりを企業へ働きかけるとともに、鳥取市男女共同参画かがやき企業認定の調査内容に、不妊治療休暇制度の項目を加えたいと考えております。</p>	健康・子育て推進課 男女共同参画課

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
3	<p>不妊の原因は女性だけでなく半分は男性といわれている。男性の不妊検査も併せて広めていく必要がある。</p>	<p>本市では県と共同で「東部不妊専門相談センター」を設置し、不妊に関する様々な相談に相談者の意思とプライバシーを尊重しながら対応しております。不妊検査に関しても、相談者の状況を伺い、必要に応じて受検していただいている状況です。</p>	健康・子育て推進課
4	<p>不妊検査を健康診断に組み込むことはできないか。</p>	<p>本市で実施している特定健康診査は、40歳～74歳の方を対象に主に糖尿病や高血圧等の生活習慣病の早期発見を目的としており、現在のところ不妊検査について検査項目に追加することは考えていません。</p> <p>なお、本市では妊娠を希望されるご夫婦を対象に、不妊検査費の助成を行っております。</p>	健康・子育て推進課
5	<p>鳥取市は子育てしやすいまちと思うが、十分にPRできていないと思う。また、鳥取市は市民の意見を早く取り入れ、いろいろなことをやっていただいているが、それも十分にPRできていないと思う。広報部署も頑張っておられるが、市長がもっと前面に出たり、企業や団体のサポートを受けながら映える恰好でPRしてはどうか。</p>	<p>子育てしやすいまちをはじめ本市をPRするうえでは、市報での広報や市政広報番組、YouTube動画に市長が出演したり、様々な活動をされている市民、企業、団体のサポートをいただいたりしながら発信する情報が効果的に伝わるよう努めているところです。PRにあたりましては、ご提案いただいている手法を用いるなど、発信する情報に応じて、効果的なPRとなるよう工夫しながら取り組んでまいります。</p>	広報室

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
6	<p>世界に比べて日本、日本の中でも鳥取の子は自己肯定感が低いと言われている。地域で頑張っておられる方はたくさんおられるので、もっと知っていただく機会が増えれば、子供の自己肯定感も少しずつ上がっていくのではないかと思う。</p>	<p>各学校では、地域の方々とのつながりを大切にした学習を行っており、その中で地域のために尽力しておられる方々の思いに触れることで「ふるさとを愛し 志をもつ子」の育成を図っています。また、本市の道徳郷土資料集「鳥取市の志」を活用し、本市ゆかりの人物の生き方から学ぶことで夢や希望をもてるような学習も大切にしております。</p> <p>本市では、自分たちで課題を見出し、自分たちの力で解決する力（自治力）の育成を取組の柱の1つとしていますが、この取組の中で人の役に立ててよかったといった自己有用感を高めることで、他者とのかかわりをとおして育まれる自己肯定感を高めたいと考えております。</p>	<p>学校教育課</p>
7	<p>鳥取は金銭教育が遅れていると感じる。例えば、LINEみらい財団が開発したGIGAワークブックは全国の小中学校で無料で行っているものなので、鳥取市教育委員会でもご紹介いただけたらと思う。この教材は自分で考えるということを大事にしているので、自分で考えるきっかけになると思う。</p>	<p>各学校では、学習指導要領のもと、社会科や家庭科を中心に金融教育に取り組んでいます。各学校が金融教育を推進していくにあたり、金融公報中央委員会（知るぽると）等の金融教育に係る組織による各種の教材や教員向け研修会等も参考にさせていただいているところです。ご紹介いただいたLINEみらい財団のGIGAワークブックについても参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>児童生徒が「自分で考える」ということは大切であると考えており、今後も「自分で考える」授業づくりを促していきたいと考えています。</p>	<p>学校教育課</p>

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
8	シニアの方にもIT関係をもっと勉強してほしい。	<p>社会全体でデジタル化が進み、デジタル機器が身近になる中、デジタルを活用できる人とできない人との格差の解消が課題となっております。ご意見いただきました「高齢者のデジタル格差」も、解消すべき課題の一つと考えております。</p> <p>本市は、身近なデジタル機器「スマートフォン」に着目し、通信事業者や地元企業、鳥取市社会福祉協議会などの協力団体の支援をいただきながら、高齢者などのデジタル機器の活用が不慣れな方に、スマートフォンの操作方法や行政手続方法などを学ぶ教室を地区公民館などで開催しております。</p> <p>これまで教室を受講された方からは「知りたいことが聞けてよかった」「できなかったことができるようになってうれしい」といった感想をいただいております、理解を深めて頂いたものと考えております。</p> <p>高齢者のデジタル活用に有効な取組の一つと考えておりますので、協力団体に相談しながら、来年度も継続して開催してまいります。併せて、他の有効な施策についても、引き続き研究してまいります。</p>	地方創生・デジタル化推進室
9	学校はZoomやGoogle Meetなどを活用しているが、町内会は未だに対面で集まっている。コロナ禍で短時間で終わる集まりもあるので、内容によって、Zoomで終わらせるようなことはできないかと思う。	<p>本市では、携帯電話事業者と連携して、デジタル活用に関する理解やスキルが十分でない方に対し、地区公民館でスマートフォン教室を開催し、デジタルデバインド（情報格差）の解消に取り組んでおります。</p> <p>町内会によって地域活動のデジタル化に関する考えは様々であると思いますが、地域活動においてデジタルツールの活用を希望する町内会からの相談には応じていきたいと考えております。</p>	協働推進課

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
10	<p>ZoomやLineなどは一例だが、鳥取の人は新しいことには慎重になり、一歩を踏み出すのが遅い。例えば、市長の「大丈夫だよマーク」をやってみてはどうか。市長にはブランドがあると思うので、安心感を持ってもらえる。</p>	<p>社会全体でデジタル化が進む中、日々、新たなサービスや商品が生み出され、利用する際には不安に思われることも多いかと思えます。</p> <p>本市では、とっとり市報や公式ウェブサイトなどで、消費生活に関する情報をはじめとした様々な情報の提供を行っております。</p> <p>また、高齢者を対象とした「スマートフォン教室」を開催するなど、デジタル機器の利用に理解を深めていただく取組も行っているところです。</p> <p>引き続き、市民のみなさまに安心して生活していただけるよう、わかりやすい情報提供に務めてまいります。</p>	<p>政策企画課</p>

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
11	<p>「とっとリーダー育成」の提案をしたい。県外転出される機会のうち、一番困り込みたいのが高校卒業前だと思う。卒業後も鳥取市で築いた交友関係を維持できるよう、定期的に繋がりに続けられるネットワークのリーダー選出と研修を在学中に実施してはどうか。</p> <p>とっとリーダーを中心に定期的にリモートでアクセスして交流会を開くほか、市の主導で「とっとリモート会」として月に1度鳥取市の人材（企業のトップや採用担当者等）にゲスト参加してもらい、人脈を築く場の提供・鳥取市の企業周知をしてはどうか。</p> <p>また、婚活の場としてのオンラインイベントも実施し、移住者促進につなげてはどうか。</p>	<p>将来、進学や就職などで市外に転出する高校生等の若者が、市外転出後も鳥取市で築いた交友関係を維持し、定期的に繋がりに続けることができる仕組みづくりは重要であると考えております。</p> <p>本市では、地元就職や将来的なUターン就職につながるよう令和3年度から「地元企業早期プランディング事業」に取り組んでいます。この事業では、進路選択前の高校1・2年生を対象に、地域や地元企業についてのオンライン学習と少人数グループでの職場体験を組み合わせた通年のプログラムを提供し、地元企業の魅力的な事業展開や地元で働く意義について体験的に学んでいただいています。専門学校生や大学生への取組としては、鳥取県や県外大学等が主催する就職相談会やセミナーに出席して、市内就職に関する情報提供や相談に応じるなどの取組を行っております。</p> <p>また、婚活に関しまして、本市では、麒麟のまち圏域への移住を希望する方にもご利用いただける「麒麟のまち婚活サポートセンター」を運営しており、オンラインでの婚活イベントも開催しているところです。</p> <p>引き続き、これらの事業に取り組むとともに、今回ご意見をいただいた「とっとリーダー育成」も含め、新たな施策も研究しながら、若者定住に向けた取組みを行ってまいります。</p>	<p>政策企画課 経済・雇用戦略課</p>

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
12	<p>一度は県外に出ることも必要だと思うが、また鳥取に帰ってもらう仕組みをつくり、早め早めに取り組むことが大事と思う。特にみんなが一同に会する成人式の場は大事で、県外に出た方に対して鳥取の良さを感じてもらえるような取り組みが必要と思う。</p>	<p>進学や就職などで市外に転出する若者に、将来、本市に帰ってきてもらう仕組みづくりは重要であると考えております。本市は、移住定住専用ポータルサイト「とっとりコネクト」に、懐かしい風景などのSNS投稿をまとめた「ふるさとアルバム」やUターン移住者の声を掲載するなど、若者に市外転出後も本市とつながり続けてもらうための仕掛けづくりに取り組んでおります。</p> <p>また、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを受けて、本市の成人式は、本年度から「はたちのつどい」と名称を変えて開催しております。毎回、参加者有志による実行委員会を組織して、ふるさとの良さを再認識し、温もりを感じてもらえる企画を練り上げており、例えば、小・中・義務教育学校や保育園時代にお世話になった先生からのビデオメッセージを上映したり、ふるさとの自然や歴史、文化等のPR動画を上映するなど、心に残る式典となるよう工夫をしております。</p> <p>さらに、18歳から19歳の新成人に対しても、本年度から「新成人応援プロジェクト」として「あなたが伝えたい鳥取市の魅力」をテーマに、次世代やふるさとへの思い、新成人としての決意などを添えた「鳥取の画像」を募集するなど、社会にはばたく前に、ふるさとの良さを再認識してもらう取り組みも開始しております。</p> <p>引き続き、ライフステージの様々な場面で、ふるさととの絆づくりに取り組むとともに、新たな施策も研究しながら、若者定住に取り組んでまいります。</p>	<p>生涯・学習スポーツ課 地域振興課 政策企画課</p>

No	ご意見・ご提言	対応方針	担当課
13	<p>「とっとりターン助成制度」を提案したい。鳥取市の企業に就職された方に、これまでの人間関係を大事にしていたいただきたいため、出身地（大学）へ帰省するための交通費を支援してはどうか。</p>	<p>企業の魅力向上は、市内企業への就職促進に繋がるものであり、自社の魅力や人材採用に係る動画の作成支援や、従業員の奨学金返済を支援する制度を設けている事業者への支援などを実施しているところです。</p> <p>いただいた意見も参考にしながら、市内企業への就職を促す取り組みについて、引き続き、施策を研究してまいります。</p>	<p>経済・雇用戦略課</p>
14	<p>鳥取にいても仕事はできる。特に子供など、いろいろな働き方があることを知らないことが多いため、事例を知ってもらうことが大事だと思う。</p>	<p>各学校では、地域の大人から働くということについて話を聞いたり、自分が興味や関心のある職業について調べたり、地域にある職場に実際に出かけて体験したりするなどの学習に取り組んでおります。また、地域の大人や大学生と一緒に、働くということや地域のことなどについて話をする取組を実施している学校もあります。多くの方々に関わっていただきながら、「鳥取にいても仕事ができる」ことや「いろいろな働き方がある」ことに児童生徒が気づくことができる機会を、今後も設けていきたいと考えております。</p>	<p>学校教育課</p>